

# フレシマの風力 発電に意見書提出

## 建設に反対の考え示す

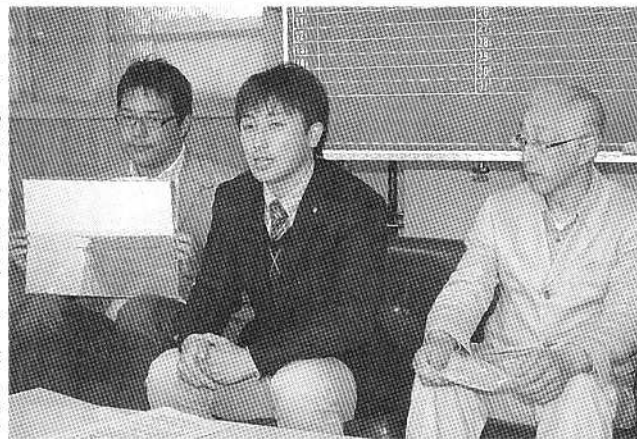
日本野鳥の会、同根室支部

根室市フレシマ地区に風力発電を計画している電源開発(東京)に対し、日本野鳥の会(東京)と同根室支部(阿部嗣支部長)は十一日、電源開発が示している環境影響評価方法書では「調査が不十分で、立地選定から見直すべき」との意見書を提出した。野鳥の会では「北海道の原風景が残された希少な場所」で、多くの野生生物に多大な影響を与える」とし、独自の野鳥生息調査などを実施するなど建設に反対する考えを示した。

風力発電を計画しているのは風力発電で国内第二位のシェアを持つ電源開発で、フレシマ地区の海岸沿いの民有地の丘陵部に風車十五基を建設し、三万四千五百キロワットを発電する内容となっている。

同地区は、テレビドラマ「南極物語」の南極シートのロケが行われるなど自然が多く残された地域で、湿原と草原、湖沼からなる道内でも数少ない北海道の原風景を残す地域(野鳥の会)。天然記念物のオジロ

ワシやオオワシなど猛禽類をはじめ特別天然記念物のタンチョウ、準絶滅危種でオーストラリアから渡ってこの地で繁殖しているオオシギなど貴重な野鳥の宝庫ともなっている。また、世界的にも絶滅の恐れが心



フレシマ地区の風力発電計画に反対の意見書提出で記者会見する日本野鳥の会………

配される「マダラウミズメ」の番(つがい)が数日前にフレシマ地区の沿岸付近で目撃され「繁殖の可能性が高い」という。

野鳥の会では電源開発とは別に、隣接する「渡邊野鳥保護区フレシマ」で、今年秋までをめぐりに独自に野鳥の生息調査を実施する考えで「フレシマ周辺での風車建設は絶滅の恐れのある鳥類の生息に対して多大影響を与える恐れがあり、不適切である」とし、同地区での風力発電に対して反対する姿勢を鮮明にした。

(西田)

意見書では「計画されている鳥類調査では調査地点の設定場所、調査箇所数が十分でなく、見直す必要があり、悪天候時も調査する必要がある」と、「多くの鳥類が渡るため、ガン、カモ、ハクチョウ類など特定鳥類に限定せず、すべての渡り鳥を対象にすべき」、「稀少猛禽類の調査では、調査地点が取りから目立つ場所、調査の実施自体が猛禽類の行動をかく乱しかねない」、「環境予測する方法が方法書に明記されていない」などを挙げています。

また、根室支部の意見書では加えて子どもたちを対象とした自然教室が開催されている地域で「人と自然のふれあいの活動の場」としての評価項目も選定するべきとしているほか、「コウモリなど哺乳類や両生類、爬虫類、さらに植物など多くの野生生物についての影響評価の調査が必要としている」。